



Weねっと



【83号】

和歌山県介護支援専門員協会 西牟婁田辺支部
〒646-0028 田辺市高雄1丁目23-1
(田辺市田辺地域型地域包括支援センター内)

令和2年度
7/8号

TEL 0739-26-9906 FAX 0739-25-3994
e-mail hokatu@city.tanabe.lg.jp

【定例研修会報告】

「統合的・多面的アセスメントで相互作用を深め 最適な支援を導き出すための基礎」 ～ソーシャルワーク実践の中で「基本中の基本」と言われるアセスメントを学び ケアマネジャーとしての面接力を高める～

令和2年12月1日(火)に、稲松 真人 氏(兵庫県対人援助研究所 主宰)を講師に招いて開催した、標記研修は、田辺スポーツパーク(参加者/会員:48名・非会員:3名)を主会場に、特別養護老人ホーム日置の郷(参加者/会員:18名・非会員:1名)にライブ映像を送るという形での、2会場開催で行いました。

面接(アセスメント)がうまくいくかどうかは、この人(ケアマネジャー)になら自分(利用者)のことを包み隠さず話せるという、信頼が得られるかが肝心と話されたうえで、アセスメントについて、以下のポイントを挙げられました。

あなた(ケアマネジャー)は、相談者(利用者)が言いたいこと(不安)を聴けていますか？

あなた(ケアマネジャー)が聞きたいことだけ聞いていませんか？あなた(ケアマネジャー)の主観や価値観で利用者を理解したつもりになっていませんか？

あなた(ケアマネジャー)は、相手(利用者)の様々なことに興味を持って聴くことができますか？

聴いた事柄の周辺に話を広げていくことができますか？

利用者が「主体」であることを意識できていますか？

利用者からの訴えを「客観的事実」と「主観的事実(気持ち)」にきちんと分けて捉えられていますか？

ICFの視点に加え、利用者自身や家族、人間関係や地域から利用者の状況を見た、それぞれの視点も理解し(多面的視点)、それぞれが、どのように結びついているか(統合)を考えられていますか？

アセスメントとは、様々(多面的)な情報を組み合わせ(統合)、見通しを立てていくことであり、そこへ、新たな情報を次々と加えながら、組み合わせを(統合)を見直すことを繰り返すのがアセスメントである。ということであったと思います。

《日置の郷会場の様子や感想》

田辺会場の映像を視聴するかたちでしたが、稲松先生が個人ワークや、2名でのワークを取り入れられたため、聴くだけの研修ではなく、「参加した感」がありました。

ただ、日置の郷会場側の音声は終始切っていたので、質疑等の際には、音声を双方向に切り替えて、日置の郷会場からも質問ができるといったことができれば良かったと思いました。

また、スクリーン投影のため、会場を暗くしていたので、手元資料が見つらかったのではと思いました。

今後は、講師がいらっしゃるところで研修を受けたい方、反して、移動や集団で集まるのは遠慮したいと思われる方にはZoom視聴など、選択肢を増やしていただくと助かると思いました。

別会場としては、音声も映像も途切れることなく、うまくできたと思います。

《インタビュー》 参加してくれた方に講義内容についてお聞きしました。

→ 「クライアントの【ここを聞いて】という不安な部分を汲み上げる事ができるように、時間をかけてお話を伺う事が基本だと改めて感じました。ケアマネ自身の聞きたいこと優先していないか？という稲松先生の言葉に、「そういう所はあったかも」と気付かされました。また人間理解のレベルについては、とても興味深かったです。援助のプロとしての必要な要素については、自身を振り返ってみようと思います」
(ケアマネ歴4年 女性)

《インタビュー》の続き

→ アセスメントの大切さについて改めて学ぶことが出来、日頃このようなアセスメントが出来ているかを振り返りながら研修を受けました。

クライアントの理解の仕方については、主観的理解や客観的理解になりがちであるが、共感的理解を持つことで相手側からの気持ちをうまく聞き出せ、クライアントの気持ちについてのアセスメントに繋がっていければ、支援にも上手く結びつけられると思えた。インテークからアセスメントまでの流れについて面接技術を磨き、本人をどう理解するかで支援内容についても大きく変わる事について学びました。

(ケアマネ歴 4 年半 女性)

みんなで、新型コロナウイルス感染を予防しましょう (内閣官房 発表資料より)

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



■ 次回研修のお知らせ (※詳しくは事務局からのお知らせ、もしくは支部ホームページをご覧ください)

▶ 訪問看護との交流会

『訪問看護事業所とケアマネジャーの関り方～より良い支援を求めて～』

日時：令和3年1月16日(土曜日) AM9:30～AM11:30

場所：和歌山県立情報交流センター ビッグ・U 研修室1

※すでに参加申し込みは締め切っています。 ※申し込まれた方は体調を整えてご参加下さい。

▶ 自立支援協議会との共催研修

障がい者支援の相談支援専門員との事例検討と交流

日程/場所：令和3年2月24日 午後 / 田辺スポーツパーク (詳細は追って、お知らせします)

“西牟婁田辺支部”で



事務連絡

◆ Weねっとをはじめとする事務局からの連絡事項は、原則 FAX に行ないます。その際、以前に送付確認させて頂いた宛先(事業所等)に送信いたしますので、その後は確実にそれぞれの会員のお手元に届くよう事業所内でご配慮お願いいたします。 ※送付先変更等は随時、お知らせください。

※たくさんの方が会員になっていただくことで、協会の運営基盤が強化され、研修開催や意見の発信をしていく等の活動が支えられています。お近くに、入会されていない介護支援専門員さんがおられましたら、入会の声掛け、よろしくお願いいたします。

(12月18日現在 西牟婁田辺支部会員数 187 人)